

■ 下呂市立萩原小学校

1 児童の実態

歯科健康診断の結果から、う歯のある子は367人中66名であった。また、今年度の治療率は、11月末の時点で86.4%と比較的高いといえる。しかし、未治療の児童をみると、昨年度から治療を行っていない児童が6名いることがわかった。さらに、6名中5名がう歯2本以上・歯垢2・歯肉炎2の状態であった。

そこで、う歯があり、かつ昨年度から未治療の児童をハイリスク児とし、歯の健康への意識を高めることのできる働きかけの仕方と、う歯は奥歯に多いため、奥歯のみがき方を改善できることを重点に取組を行った。

2 取組内容

(1) 保健指導（集団指導）

①児童委員会による給食時の歯みがき指導

本校では、給食後に各クラスで歯みがきソングを流し、それに合わせて歯をみがいている。児童健康委員会では、全校児童が音楽に合わせて歯をすみずみまで正しくみがけているか、また歯ブラシは開いていないかを確認し、できていない子には直接声をかけて改善させる取組を行った。その際、普段の歯みがきの様子を知るために、養護教諭も委員と各クラスを回り、ハイリスク児を中心に個別に声をかけた。

また、全体的に気になる様子については、担任に伝え、みがく時の姿勢や歯ブラシの替え時について、話をしてもらうことができた。

特に、ハイリスク児童の歯ブラシは、開いてしまっていることが多かったので、本人に声をかけるとともに、担任からも保護者に連絡し、新しい歯ブラシに交換させた。健康委員会の児童と一緒に行動することにより、集団の中でもハイリスク児に声をかけやすく、みがき方の指導も丁寧になった。

②歯科衛生士によるブラッシング教室

毎年第2学年を対象に、歯科衛生士がブラッシング教室を行っている。6歳臼歯を染め出し、みがき残しがないように、口の横から歯ブラシを入れてみがく「王さまみがき」を指導していただいている。

事前の打ち合わせでは、気になる児童（歯の治療は済んでも毎年健診でう歯が複数ある児童など）を伝えることで、口腔内の様子やブラッシングの仕方など、より丁寧に指導していただけた。



<児童の感想より>

- ・王さまみがきを教えてもらったので、これからは王さまみがきをいつもお母さんに見てもらいながらみがきます。
- ・私は、王さまみがきをはじめて知って、20回同じところをみがいてなかったので、今日からみがきたいです。6歳臼歯がみがけてなかったので、今日の夜から続きたいです。



(2) 保健指導（個別指導）

①実施時期、対象者数

- ・冬休み前の時期をねらい、未受診者（前述6名）に対して、再度受診票の配付を行い、個別のブラッシング教室参加希望の有無についてお知らせした。
- ・個別指導は、昼休みに保健室で10分ほど行った。

②内容

- ・う歯や歯肉炎の状態を確認し、みがき残しの多い歯と歯肉炎になっている場所を用紙に記入する。
- ・DVDを見ながら、歯みがきの仕方を確認する。
（DVDは第75回全国小学生歯みがき大会特典『ハーロックホームズくん』を使用）
- ・自分の歯並びに合わせた歯みがきの仕方を練習する。
- ・う歯については、受診しなければ治らないことを伝え受診を勧めた。

③成果

- ・自分の歯をじっくり観察することで、歯肉炎やむし歯を確認し、歯みがきの大切さに気付かせることができた。
- ・個別に指導することで、みがき残しの多い歯に注目させ、歯並びに合わせたみがき方ができるようになった。

<児童の感想>

これだけちゃんとみがかないといけないということがわかりました。今日教えてもらったことを生かして家でもしっかり歯を大切にしてみがきたいと思いました。



3 全体を通して成果と課題

- 個別指導の時間がなかなか取れない中で、集団指導の中で個別指導を丁寧に行うなど工夫することで、ハイリスク児童の意識を高めることができた。
- 個別指導を行うことで、歯みがきの大切さを知り、自分のこととして受け止める姿があった。
- 本校では、受診の必要がある歯肉炎の発症率が35.3%と高く、ハイリスク児と合わせてより効果的な歯肉炎予防の指導が必要である。
- 個別指導は昼休みに行ったが、来室者が多く、じっくり向き合える時間が少なかった。個別指導を受ける児童が安心して自分の歯の状態と向き合える時間を確保したい。そのためには保健室に来室する児童が極力少ない時間の設定、1対1で向き合える場所の工夫などが必要である。



1 実態

今年度春の歯科検診の結果、全校生徒824人の内、「未処置歯あり」が63人（7.6%）、「歯垢の状態が1及び2」が合計で220人（26.7%）、「歯肉の状態が1及び2」が合計で176人（21.4%）であった。その内、昨年に比べて「歯垢の状態が2」の生徒が15人から38人、「歯肉の状態が2」の生徒が16人から60人と、大幅に増加した。

2 ねらい

昨年と比べ、歯垢と歯肉の状態が悪化していることが分かったため、両方の状態が悪い生徒に対して、口腔状況の改善、普段の歯みがきの対する意識の改善・向上を図る指導を行った。

3 実践

(1) 集団指導

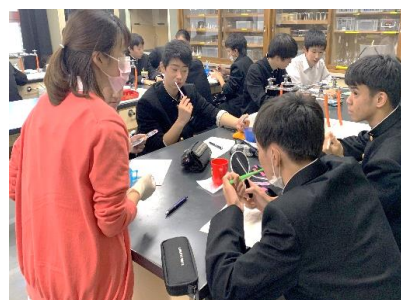
①実施時期、対象者数

令和元年11月19日 対象者（27名）

②内容

<再検診及び歯科衛生士による歯科指導>

期末考査終了後に対象生徒を集め、その場で学校歯科医による歯科検診を行い、歯垢と歯肉の状態を診てもらった。その後、カラーテスターでの染め出しを行った。プリントを配付し、自分の歯のどこがみがけていないかを確認させ、プリントの図上にマークさせた。歯科衛生士の指導を受けながらブラッシングを行った。



③成果

- ・染め出しを行ったことで、みがき残しを視覚的に把握させることができた。
- ・日頃行っている歯みがきの不十分さに気づかせ、今後どのようにみがいていけばよいか、認識させることができた。

(2) 個別指導

①実施時期、対象者数

令和元年12月2日～13日 昼休み 対象者（27名）

②内容

<養護教諭による個別指導>

昼休みに対象生徒を数日に分けて集め、保健室にてブラッシングを行った。

集団指導以降の歯みがきや歯の状況、歯科受診状況を聞き取った。

③成果

- ・個々に、歯みがきをする際のポイントを再認識させることができた。
- ・歯科受診をまだしていない生徒に対して、受診を促すことができた。

(3) 学校歯科医における保健に関する指導

①実施時期、対象者数 保護者の参加の有無

令和元年12月18日 放課後対象者(27名)

保護者参加なし



②内容

<学校歯科医による検診及び個別指導>

放課後に対象生徒を集め、11月19日の歯科検診の結果と比較しながら、個別の歯科指導を行った。

③成果

- ・以前と比較して、歯の状態が良くなっている生徒が多かった。
- ・ほとんどの生徒が歯科受診したが、受診していない生徒に対して、学校歯科医から歯科受診を促してもらうことができた。

4 成果と課題

- 歯科衛生士による歯科指導で、染め出しを行ったことによって、視覚的にみがき残しの箇所を把握することができた。また、手鏡で口腔内を見ながら指導を受けられたことで、普段の歯みがきの見直しにつながった。
- 歯科指導を受け、約1カ月の間に、歯ブラシの動かし方・丁寧さ・時間など気をつけてみがくことにつながった。歯ではなく歯肉の状態を気にして、歯茎をみがくことを意識する生徒や、他事をしながら歯みがきをしていた生徒が、しっかりと鏡を見てみがくようになった。
- 歯垢と歯肉の状態に変化がみられない生徒もいたが、状態が悪くなった生徒はおらず、約70%の生徒は状態を改善することができた。
- 歯石ありの生徒は、14名から2名に減らすことができた。
- 今回の歯科指導を行ったことで、学校歯科医との連携が強まり、今後も指導を行っていただけることにつながった。
- 結果的に多くの生徒が歯科受診をすることができたが、何度も行くように促さなければならなかった。紙面だけではなく、個別の丁寧な指導を今後もしていく必要がある。
- 今回の指導は単発的なものであるため、今後どのような指導を継続的に行っていくのかが課題である。

■ 岐阜県立海津明誠高等学校

1 実態

本校は、生徒数549人の中規模高等学校で、4～5月に実施した歯科検診の結果は下記のとおりである。

	検診人数	う歯あり	う歯5本以上	歯垢1	歯垢2	歯肉1	歯肉2
高1	188	123	34	2	0	43	0
高2	181	125	28	1	1	36	1
高3	175	104	27	0	0	45	1
合計	544	352	89	3	1	124	2

全生徒の約65%が「う歯あり」、「う歯が5本以上」の生徒が全生徒の約16%という結果であった。また、歯垢や歯肉で要受診の者は合計3名であったが、「歯肉1」が全生徒の約23%であった。

2 ねらい

未処置歯5本以上、または歯肉1かつ未処置歯4本の1年生を対象に、自分の歯の状態を知り、歯の健康を保持増進するにはどうしたらよいかを知り、行動できるようになる。

3 実践

(1) 養護教諭による個別指導

①実施時期：令和元年7月

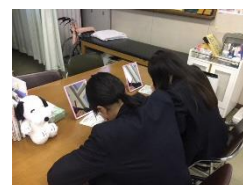
②内容：歯の状態アンケート、歯の染め出し、歯みがき指導

始めにアンケートを行い、歯肉炎の症状や、歯みがきの方法、歯科医院への受診状況などを確認し、自分で自分の歯の状態を知り、受診の必要性に気づかせた。

その後、放課後等休み時間に保健室で歯の染め出しを実施し、普段の歯みがきで十分にみがけていない部位や歯並びについて養護教諭と確認し、みがきにくい部位をどのようにみがけばよいかを指導した。

③成果

アンケートや染め出しにより、自分の歯の状態や自分の歯並びに応じた歯みがきの仕方を学ばせることができた。また、個別に対応することで、歯みがきや歯科医受診への意欲を高めることができた。



(2) 学校歯科医における集団指導

①実施時期：令和元年9月12日（木）

②内容：歯科講話（歯肉炎・親知らず・ブラッシング等について）、歯科健康診断

③成果（感想）

- ・歯肉炎になる原因は、食べかすが残っているからということがわかった。
- ・歯ブラシを交換して3週間以上たっているので今日換えようと思いました。
- ・これからは歯をみがく際、1本1本丁寧にみがき、歯周ポケットに食べかすが残らないようにしたい。
- ・今までは歯の表面と歯の隙間しかみがいていなかったなので、歯と歯肉の間から掻き出

すことをこれからは取り組んでいきたいと思った。

- ・治療を終えても新たに歯垢が付いたら同じことを繰り返してしまうということを学んだので、しっかりと歯みがきをしようと思った。
- ・歯肉炎の原因になる汚れは歯みがき粉でも取れないことがわかったので、違和感があったらすぐに病院に行こうと思った。

(3) 事後アンケートの実施と評価

7月に実施したアンケートを同様に10月に実施した。歯科指導を受けてから歯肉炎の症状に変化があるかを確認し、今後も継続して丁寧な歯みがきを行うよう指導した。

No.	項目	事前(%)	事後(%)	評価
1	朝起きた時に口の中がネバネバする。	11	0	↑
2	歯みがきの時に出血する。	37	7	↑
3	口臭が気になる。	9	3	↑
4	歯肉がむずがゆい、痛い。	3	0	↑
5	歯肉が赤く腫れている。	9	0	↑
6	固い物が噛みにくい。	14	3	↑
7	歯が長くなったような気がする。	0	0	→
8	前歯が前に出たり、歯と歯の間に隙間ができた。	14	10	↑
9	食事をよく噛まずにすぐに飲み込むことが多い。	31	14	↑
10	お菓子や間食をよく食べる	57	48	↑
11	食べ物の好き嫌が多い。	31	24	↑
12	歯を1本ずつ丁寧にみがいている。	46	59	↓
13	歯みがきは順番を決めて行っている。	34	38	↓
14	歯周病が全身に影響を及ぼすことを知っている。	42	59	↓
15	5月の学校歯科検診後に歯科医院に行った。	31	59	↓

<現在取り組んでいること（事後アンケートより）>

- ・今まで以上にみがきにくい部分を意識して、長い時間みがくようにしている。
- ・左上から一本ずつ丁寧にみがくようにしている。

4 全体を通しての成果と課題

- ・保健室で染め出しを行い、それぞれの歯並びに応じた歯みがきの方法を指導したことは、生徒本人の意識改革につながった。しかし、全員の実施はできなかったため、休み時間ではなく、他の時間を活用するべきであった。
- ・歯科医による講話と2回目の歯科検診によって、歯の健康を意識する機会になり、歯みがきの方法や歯ブラシの交換、歯科医受診について、行動変容の意欲がみられた。
- ・アンケートの結果からは、歯肉炎に関する自覚症状が改善しており、歯みがきをより丁寧に行うようになったという結果であった。
- ・個別指導において、「痛くないから受診しようと思わない。」「歯みがきする前に寝てしまう。」という生徒がおり、受診の必要性がわかるよう指導することや、どのタイミングで歯みがきをすればよいかを一緒に考えることで、受診や歯みがきの改善につながった。何度も受診勧告書を配付するのではなく、個別で丁寧な指導が必要であると改めて感じたので、今後はハイリスク者に対して個別指導を行っていきたい。